

令和7年8月26日

令和7年度 学校関係者評価報告書

学校法人大原学園
大原医療秘書福祉保育専門学校
学校関係者評価委員会

学校法人大原学園 大原医療秘書福祉保育専門学校 学校関係者評価委員会は、令和6年度自己点検・評価報告書に基づいて学校関係者評価を実施し、以下のとおり報告致します。

1. 実施日

令和7年8月26日（火）

2. 学校関係者評価委員

片岡 浩 氏 （社会福祉法人 千代田区社会福祉協議会 事務局次長）
田中 正典 氏 （公益財団法人がん研究会 がん研有明病院 健診センター運営部 部長）
新井 健太 氏 （株式会社こどもの森 まなびの森保育園神保町 園長）
薄井 正和 氏 （社会福祉法人 恩賜財団東京都同胞援護会 特別養護老人ホームゆたか苑 園長）
櫻井 大樹 氏 （社会福祉法人 江東こども会 亀戸浅間保育園）
田端 孝司 氏 （ウェルビーイング法律事務所）

（事務局）

羽深 義輝
若井 浩美
佐々木 美由紀

令和7年8月26日

【自己評価】0%（取り組めていない） ～ 100%（取り組みは十分で、成果も出ている）までの11段階評価						
令和6年度 学校関係者 評価報告書		中項目		自己 評価	総括	学校関係者の評価・提言
No.	項目	No.	項目			
1	教育理念・目的・ 育人人材像	1	理念・目的・ 育人人材像	80%	教育理念・目的はホームページなどで周知徹底されている。学園の特色の一つが教育ストーリーを3段階(4期)に区分して実施することであり、これにより他の学校法人の追随を許さない「就職」と「資格取得」の実績を生み、有為な産業人を育成することができている。この資格取得と就職実績をさらに向上させ、専門学校としての基盤を強化するために、社会の動向を的確に見極め、ニーズを調査・分析して事業計画を組んでいる。	適正に運営されている。
2	学校運営	2	運営方針	定めて いる	学園全体の運営方針は理事会・評議員会で、また各校の運営方針は校長を中心とした運営会議で定められている。その内容は全体朝礼で告知するとともに各課で周知徹底している。教育現場への浸透度合いを確認し、より高めることが今後の課題である。	適正に運営されている。
		3	事業計画	定めて いる	学校の運営方針を反映した事業計画（目標達成プログラム）は毎年度作成されており、各部署では目標を達成すべく定期的に進捗と差異を確認して必要な手立てを講じている。教職員全体での共有化を更に推し進めることで、目標達成をより確実なものにしていく必要がある。	適正に運営されている。
		4	運営組織	90%	理事会・評議員会で決議された内容は、本部長・事業部長・校長の下で開催される運営会議で伝達・説明され、部長・課長などの各階層でも適切な意思決定が行われている。また、意思決定が効率的に行えるように、職務分掌と責任に関する規定と各部門・各部署の役割を明示した運営組織図がある。	適正に運営されている。
		5	人事・ 給与制度	80%	要員計画、採用計画、教職員研修計画を通じて、人材の着実な確保と育成が行われている。また、人事・給与に関する規定も整備されていて、人事部および人事委員会を中心にして適切に運用されている。	適正に運営されている。
		6	意思決定 システム	90%	理事会、評議員会、学園本部、学校と階層ごとに意思決定システムが確立されており、意思決定者による決定内容はイントラネットやグループウェアなどを用いて速やかに伝達されている。	適正に運営されている。
		7	情報 システム	80%	学校運営における管理システムの多くはすでに導入されており、現場の業務軽減に役立てている。役目を終えたシステムなどが残されており、また、業務に応じ、その都度開発されてきた各種システムが存在しているため、これらの整理統合に取り組んでいる。	適正に運営されている。
3	教育活動	8	目標の設定	設定し ている	毎年、教育課程を編成するに当たり、教育課程編成委員会の提言を教育課程に反映させることで、時代のニーズに合った教育を提供している。また、各コースの教育目標、育人人材像は、分かりやすい言葉で、できるだけ具体的に示している。	適正に運営されている。
		9	教育方法・ 評価等	70%	教育課程は、体系的にステップアップできるものになっている。定期的な見直しに当たっては、卒業生、近隣住民、関連企業等の協力による検討会を行っている。また、学生との定期的な面接により学生からの意見を聞き、講義方法の改善をおこなっている。	適正に運営されている。
		10	成績評価・ 単位認定等	80%	成績評価・単位認定は客観的な方法で常に行っている。また、実習については、各分野の現場担当者にご協力頂き、実際の各分野に合った人材であるかの評価もご協力を頂いている。	適正に運営されている。
		11	資格・免許の 取得の指導 体制	80%	資格取得の指導体制は一定の水準を維持できている。ご家庭での教育方針の理解を高めること、ご家庭においても教育指針に支持、学生の支援をいただけるよう取り組む。また、実務家教員の動員を進めることで、より教育の質向上を図る。	適正に運営されている。
		12	教員・ 教員組織	80%	教員の確保については、常勤講師・非常勤講師を問わず、採用・育成・評価の各段階において、目的達成のための体制がほぼ出来上がっている。一部、不十分な点を残すが今後の課題としたい。	・施設では定期的に教員研修や報告会を実施している。特にベテラン職員ほど知識・技術が陳腐化する可能性があるので、指導者に指名し、情報収集できる環境を整えている。学校の教員も同様のことがいえると思うので参考にしてほしい。 ・モラル研修は非常に重要と思われるので、引き続き取り組んでほしい。

【自己評価】 0%（取り組めていない） ～ 100%（取り組みは十分で、成果も出ている） までの11段階評価						
令和6年度 学校関係者 評価報告書		中項目		自己 評価	総括	学校関係者の評価・提言
No.	項目	No.	項目			
4	学修成果	13	就職率	90%	就職希望学生への就職指導においては、担任及び担任以外の教員が個別面談を進め、学生個人の適性及び能力と属性を十分に考慮した指導を実践している。学生本人の希望する就職が概ね達成できている。また、それらの達成状況（就職率）は学園本部で管理されている。	適正に運営されている。
		14	資格・免許の 取得率	80%	教育課程を編成する中で、学生が就職を志望する業界、業種で役立つ資格取得を目指している。大半の学生が合格出来るよう教材作成、カリキュラムや指導方法の研究も行っている。	適正に運営されている。
		15	卒業生の 社会的評価	70%	今後は、実習先でない就職先に就職した卒業生に対し、入社後状況調査を実施し、教育カリキュラムにも反映していきたい。当校の卒業生は基本的な社会人マナーについて高い評価を頂いている。（挨拶、返事、基本的行動等）ただし、文書力、課題解決力が不足している点を複数の就職先から指摘頂いているため、今後の教育課程編成における課題として取り組んでいく。	適正に運営されている。
5	学生支援	16	就職等進路	70%	就職は教育の大きな目的であり、そのための支援体制は整備されている。就職内定獲得に必要な指導内容は2年間（又は1年間）カリキュラムの一環として組み込まれ、学生の希望に沿った内定を実現している。近年は、求職者支援事業として委託訓練生も受け入れを行っており、年齢層の高い在校生もいるが、就職に対するニーズに対し、キャリアコンサルティングを通して早期に把握し、希望に沿う就職指導ができています。	適正に運営されている。
		17	中途退学への 対応	60%	退学率の低減は入学者の確保と同様、事業計画における最重要課題の1つとして取組んでいる。学生が退学を希望するきっかけとなる時期・理由は多様化しており、今後は学生指導勉強会の定期的な実施、外部研修会への積極的参加等、担当者の更なる能力向上に向けた取組みが必要である。ご家庭との連携頻度を高め、初期段階から連携することを意識している。	・施設などでも退職防止のために定期的な面談を設けたり、部署を超えた横の年代ごとの座談会やプロジェクトを設け、幅広く交流できる場を作っている。学校でも取り組まれているようだが、定期的な面談はいつでも話ができる場がある、と安心材料にもなるので続けてほしい。
		18	学生相談	60%	学生相談については、学生のシグナルを担当が見逃さずにキャッチし、その都度対応している。また、節目ごとに全員と個別面接を行い、今後の進路、目標確認、悩みなどを聞きだし対応している。その結果を指導記録にまとめ、上司に報告も行うなどの細やかな指導を実践している。	適正に運営されている。
		19	学生生活	70%	より多くの学生が就学できるように、経済面、環境面などについて支援体制を整備している。今後もニーズに応じてボランティア活動やサークル活動などを充実させる。	適正に運営されている。
		20	保護者等との 連携	70%	ご家庭への連絡については定期的に行っている。特に、規定の家庭宛注意文書の発送前に、保護者等への連絡を義務付けている。必要に応じて保護者等に来校していただき、面接も行っている。しかし、業務時間内に連絡を取ることが難しく、また、理解を得られないケースも年々増えているのが現状であり、担任の負担が増している。	適正に運営されている。
		21	卒業生・ 社会人	70%	卒業生への支援体制としては、担当教員を窓口に関わり合いに応じて対応している。担当教員と上司や他の教員、関係部署間の連携により、可能な限りのフォローアップを行い、卒業生の満足も得られている。更なる満足度の向上を図るために卒業生サイトを運用し支援体制を整えている。また、大学卒業者や社会人などのニーズにこたえる制度の開発をさらに進めていく。	適正に運営されている。
6	教育環境	22	施設・設備等	60%	整備計画に基づき、計画的な改修、修繕、整備を行うことが出来ており、現時点では過不足なく進められている。また、本部との連携により、ポータルサイトの充実やデジタル教材の導入など、ハード面のみならず、ソフト面の整備充実も計ることができている。	適正に運営されている。
		23	学外実習、 インターン シップ等	90%	実習や研修等の参加にあたっては、事前にガイダンスや説明会等を設け参加する目的・意義を確実に伝えている。また、実習・インターンシップ参加前はトラブルにならないよう校内において受入先を想定し、実習前トレーニングを行うとともに目的確認を行っている。研修については説明会を多く設定し事故やトラブルを防ぐように努めている。	適正に運営されている。

【自己評価】0%（取り組めていない） ～ 100%（取り組みは十分で、成果も出ている）までの11段階評価						
令和6年度 学校関係者 評価報告書		中項目		自己 評価	総括	学校関係者の評価・提言
No.	項目	No.	項目			
		24	防災・安全管理	70%	危機管理マニュアルの改訂も行い、教職員への周知は完了している。今後、マニュアルに記載された内容に基づき、避難訓練等を実施し、その結果をフィードバックすることで、より実践的なマニュアル運用を可能としていく予定である。	適正に運営されている。
7	学生の募集と受入れ	25	学生募集活動	80%	将来を意識した学生および保護者等に対して、的確な情報を伝え、進路選択について過ちを起こさないようにさせたいと考える。また、高校側に対しても志願者について現状の認識と将来への展望を伝え、進路選択に役立ててもらいたいと考える。	適正に運営されている。
		26	入学選考	70%	学生一人ひとりに対して、書類選考を行っている。また、必要に応じて面接等を実施し、入学後進路変更がないように事前確認を十分行っており、この体制を維持していく。	適正に運営されている。
		27	学納金	適正に行っている	教育費に関しては、多くの家庭で優先順位が高い項目になっている。したがって、学費に関しては教育材料費等と常に確認をしながら負担にならない金額を設定するように心がけていく。また、学費納入に対しても滞ることがないように状況を確認していく。	適正に運営されている。
8	財務	28	財務基盤	安定している	学生募集については、学科、コースにより変動はあるが、学校全体としては良好であり、財務基盤は安定している。具体的には、キャッシュフロー、消費収支差額比率などの数値も良好な値を示している。	適正に運営されている。
		29	予算・収支計画	策定している	当年度の重点計画、前年度実績予想との整合性を保ち、健全な予算編成をしている。また、執行については定期的に運営会議などで執行状況を確認している。	適正に運営されている。
		30	監査	実施している	学校法人監事による業務監査とともに内部および外部の会計監査を受け、法令または寄付行為への遵守と学園の財務の適正性を、確保するようにしている。	適正に運営されている。
		31	財務情報の公開	70%	学園全体の財務情報は大原学園ホームページで公開されているが、刊行物あるいは学内掲示での公開に関する規程がないため、規程の準備を今後進めていく。	適正に運営されている。
9	法令等の遵守	32	関係法令、設置基準等の遵守	90%	学園本部が中心となり、法令に対して速やかに対応できる体制を採っており、遵守に必要なものも文書化している。今後は教職員および学生に対して、定期的・継続的に実施できるよう検討を進める。	適正に運営されている。
		33	個人情報保護	80%	個人情報保護については情報セキュリティ委員会の下に、各部門・各校に管理者を配して、保護活動を徹底している。また、全国会議で説明会を催すなど、周知徹底を図るとともに対策の実効性を高めている。	適正に運営されている。
		34	学校評価	行っている	自己点検・評価報告書は申請があれば全項目を閲覧できる体制になっており、大原学園ホームページにも掲載している。外部者による学校関係者評価は行い、報告書は大原学園ホームページに掲載している。今後も継続的に評価を行い、課題を明確にして学校運営に活かしていく必要がある。	適正に運営されている。
		35	教育情報の公開	70%	学校の概要や教育内容は大原学園ホームページ等に掲載しているが、教職員に関する情報はその対象となっていないので、情報公開の内容と方法について今後改善を進めていく。	適正に運営されている。

【自己評価】 0%（取り組めていない） ～ 100%（取り組みは十分で、成果も出ている）までの11段階評価						
令和6年度 学校関係者 評価報告書		中項目		自己 評価	総括	学校関係者の評価・提言
No.	項目	No.	項目			
10	社会貢献・ 地域貢献	36	社会貢献・ 地域貢献	60%	附帯教育事業は積極的に行っており、今後も幅広い年齢層で様々な分野の教育サービスを提供していく。また、地域への貢献は施設の提供だけでなく学校の特色を活かしたものも提供したいと考えている。	適正に運営されている。
		37	ボランティア 活動	70%	ボランティア活動は学生の希望者のみ学校所在地自治体や病院や保育園等のボランティアに参加している。活動報告書により個人別にボランティア時間を把握している。	・ボランティアは最近希薄化している地域コミュニティーを円滑にすることにもつながる。ボランティアの仕方も時代に併せて変わってきており、短時間のものや有償のものもあるので、学生にもまずは参加を促して体験させるところから始めてほしい。 ・施設や園でもボランティアは再開してきている。学生時代に現場で得る経験は大事。実習だけしか経験していない人より、長期間のボランティアをやっている人は実践力も身につけている。いろんな所に関わりを持つことで資質も高まるので、ぜひ学生にも参加させてほしい。
学校関係者委員会総括						
大原医療秘書福祉保育専門学校の運営や取り組みについて検証を行った。自己評価は概ね妥当であると評価できる。また、教育理念に基づいた運営方針が明確に定められており、教育理念を達成するための事業計画の策定、目標の設定により、資格実績及び安定した就職率を輩出していることから、適切な学校運営ができていると評価できる。 今年度の重点的課題である「教員の資質向上への取組みを行っているか」「退学率の低減が図られているか」「学生のボランティア活動を奨励し、具体的な活動支援を行っているか」についても、概ね問題ないが、今回の提言を踏まえて、時代に合わせた更なる改善に努めて欲しい。学校関係者一同、今後も客観的な視点から様々な提言を行い、大原医療秘書福祉保育専門学校在の信頼を益々得られるようにサポートして行きたい。						